昭和34年1月1日
人口 39.345人
世帯数 8,647
面積 295,59km²

広報 るもい

昭和34年9月1日
留萌市財政事情説明書
留萌市長 橋本作市

留萌市の財政

昭和三十三年度 決算の概要

昭和三十三年度の決算は出納閉鎖の著しく遅延した昭和三十二年度決算の影響並に昨年五月の元町の大火災により、当初一千二百六十万円の新たな赤字の発生が予想されたのでありますが、地方税財制度の改正、市税徴収成績の向上、既定経費の節減等により予想された赤字を、全額解消したばかりでなく、所定の出納閉鎖期日である五月三十一日をもつて、全会計の決算を行うことができましたことは、市の本財政が逐年再建整備されている事のあらわれとして喜ばしい事であります。別表Ⅰによりその概要を申上げますと、予算総額五億六千万円に対して歳入決算額は、五億一千万円、歳出決算額は、五億三千二百万円と差引二千二百万円が歳入不足となつております。これを前年度の歳入不足額と比較いたしますと、過不足額増減欄のとおり一般会計においては五万一千円の黒字増、水道会計は百拾万円の黒字減、國民健康保険事業においては、四百六十万円の赤字増東病院五十三万円の赤字減西病院七十五万円の赤字減診療所三十七万円の赤字増等、増減額を会計いたしますと、昭和三十二年度に対して四百一万円の赤字が増えております。その主因は国民健康保険事業の会計が標準税額に達しない課税を行つていることと、更に同税の徴収が非常に不振であることのほか、國保事業に関する財政制度が非常に不合理であること等によるもので、國保事業の赤字経営は、全國的な問題であり、昭和三十四年度以降において、逐次改善される国保財政制度に基き、これが財政の再建をなすものであります。

以上赤字の観点より三十三年度の決算を説明申上げましたが、三十三年度の決算の細部につきましては、十月に財政再計画の実施状況として報告いたす予定でありますので、本説明書においては、一部の概要説明にとどめおくしだいであります。

別表Ⅰ　昭和33年度各会計決算額　（単位千円）

区分 / 会計別	予算額	歳入決算額 (A)	歳出決算額 (B)	歳入歳出差引過不足額 (C) (A)−(B)	前年度歳入歳出差引過不足額 (D)	過不足額増減状況 (C)−(D)
一般会計	369.558	359.931	359.816	115	64	51
特別会計 水道事業	43.889	37.921	33.723	4.198	5.278	△ 1.100
國民健康保険事業	36.668	16.053	32.575	△ 16.522	△ 11.912	△ 4.610
東病院	55.815	47.659	54.723	△ 7.064	△ 7.597	533
西病院	46.500	42.895	44.617	△ 1.722	△ 2.479	757
診療所	4.508	2.678	4.467	△ 1.789	△ 1.412	△ 377
恩給基金	2.822	2.831	2.269	562	0	562
共用需品	177	173	87	86	13	73
奨学資金	70	—	—	—	—	—
合計	560.007	510.141	532.277	△ 22.136	△ 18.025	△ 4.111

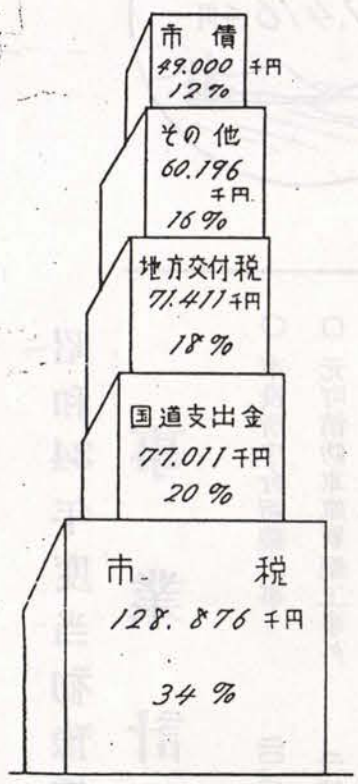
34年度 予算の概要

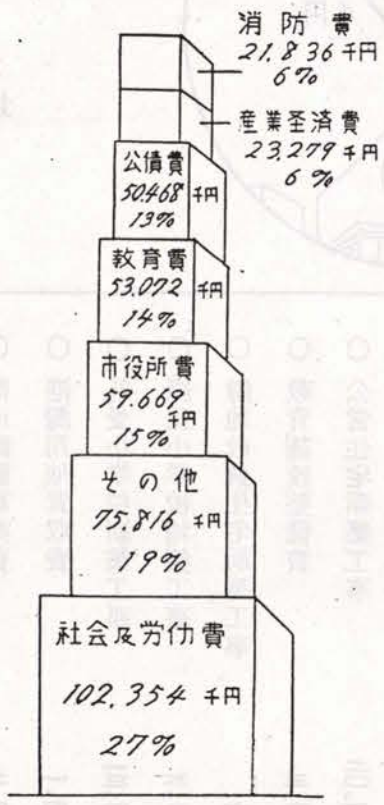
一般会計

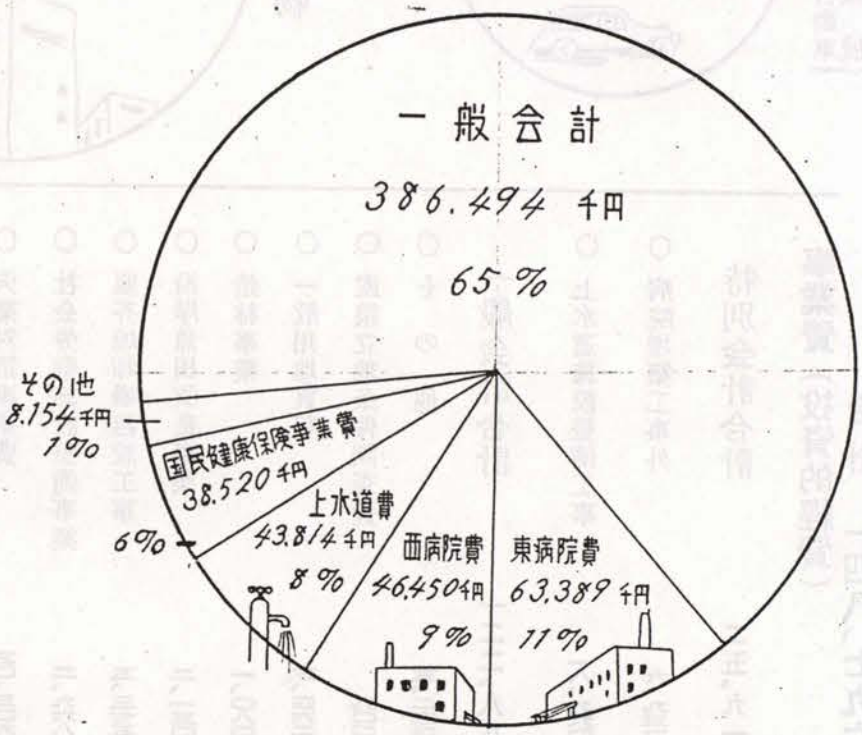
歳入 386.494千円　歳出 386.494千円

34年度当初豫算額

総額 5億8千6百万円







市税種目別

固定資産税	78.921千円	61%
市民税	21.107千円	16%
市たばこ消費税	13.754千円	11%
電気ガス税	6.400千円	5%
その他	8.694千円	7%
計	128.876千円	100%

経費別

消費的経費	199.144千円	51%
投資的経費	122.880千円	32%
公債費	50.468千円	13%
その他	14.002千円	4%
合計	386.494千円	100%

昭和三十四年度の施政方針

第一　健全財政の堅持
第二　産業立地政策の確立
第三　商工業の振興と生産力の増強
第四　港湾の早急整備
第五　文教の振興と民生の安定